

I 総括的概要

今回の東日本大震災で甚大な被害を受けた東北三県の沿岸部では、地域社会の互助が凄まじいばかりの災害を和らげています。被災した人々が支え合って秩序ある行動をとる姿は、欧米諸国はもとより世界中から感銘を受けたと称賛されています。昨今では地域社会の繋がりが薄れ、無縁社会とまで表現される時代にあって、あらためて地域の絆の大切さを実感しました。

東日本大震災は日本人全体を目覚めさせ、一丸となって復興支援へと立ち上がりました。当商工会議所は、阪神・淡路大震災の被災商工会議所であり、当時に寄せられた全国からの支援に対して全力で応えるのは会員の総意であります。ただ、未曾有の大災害を目の当たりにし、長期間にわたる支援とは何かを関係機関と緊密に連携して検討しなければなりません。

かつてない国難のなか、支援の主役はやはり人を思いやる心であり、互助互惠の精神を発揮する行動であります。奇しくも当事業年度の中心テーマは、“だいすき宝塚”と誰もが思える街、社会活動、経済活動を「持続可能」なものに変えるために事業を推進することでした。ワンコインをキーワードに事業参加を会員の皆様に呼びかけ、多くの会員の参加を得、地域全体で統一感のある事業を実施した。多くの市民や参加事業者から予想をはるかに上回る評価をいただき、地域活力を高める一歩を会員の皆様の協力で進めることができた年度でありました。

会員同士がお互い「諦めなければ、何とかなる」と励まし合うことが、力強く“事業継続・市場創造”する原動力、これが商工会議所活動の本質である。“だいすき宝塚”の理念のもと、地域活力を高め困難を極める被災地域への事業を通して長期的な支援をする当所会員の姿は、誰もが“がんばれ宝塚”との声に変わるものと思います。

「だいすき宝塚」の理念は大切な地域を自らの手で「守り・育てる」ことであり、地域の絆を確かめ合う具体的な行動です。多くの産業人に賛同を頂くことが地域活力を生む原資であり、団結する意味です。会議所会員である誇りと仲間を助け合う精神をより多くの産業人に共有して頂くことが会員拡大を図る意義であります。

困難に直面して発揮される力、これも商工会議所の本質であります。会員の団結力で達成された事業の主な成果は次のとおりです。

1. 宝塚経済活性化の政策・要望活動の積極的展開

(1) 「宝塚市産業活性化推進会議」の運営

企業立地・企業誘致等の政策立案や北部開発等地域課題を総合的に整理することを目的とし、経済活性化常任委員会を中心に研究した。具体的には宝塚市幹部と正副会頭との協議を持ち、継続開催等共通認識を得た。

2. 産業活性化策の積極的推進

(1) 地域活力増進事業の推進

①「商人塾」の開催

昨年度に引き続き大型店出店対策の一環として“宝塚まちなか商業”の活性化を目指し、今年度は「IT活用術」をテーマにした取り組みの中で講座を開催し活動内容の充実に努めた。

②だいすき宝塚推進事業「(仮称)がんばろう宝塚」の実施

事業の中核をなす「ワンコイン de スタンプラリー」を実施し、小規模零細な事業所単独では実施困難な「ワンコイン」事業を、さまざまな商材やサービスを一堂に集め紹介、業種業態をこえて多くの会員事業所が参加した。また、ラリー参加者には後日抽選で会員事業所から提供を受けた賞品が当たるなど、市内で消費する意味も併せて体感していただいた。参加事業所は事業の付加価値を高めることや市内商品の普及に寄与する事業として高い支持が得られた事業となった。

(2) 創業・起業支援事業の促進

①「起業（創業）なんでも相談日」の開設

地域内に潜在する起業をめざす人々の起業意欲を喚起するために定期的に相談日を設け、より実効性の高い事業として発展させた。また、(株)日本政策金融公庫との共催とし、起業支援を具体的に実施した。

②空き店舗等情報提供事業の実施

空き店舗対策に係る公的な支援制度や空き店舗・工場等の情報を集約し、ホームページやパンフレット等により情報をわかりやすく公開した。

(3) 労働環境対策事業

①「明るい労働環境」推進支援事業の実施

“交流” “学ぶ” “備える” “健康” “体感する” 5つのテーマに沿って、会員事業主のみならず従業員等の参加が可能な事業を実施した。市内企業の互助互恵の精神を発揮して連帯感を高めるとともに職場の連帯感もあわせて醸成する事業を企画し実施した。反面、参加者ニーズに充分応えることができず、事業内容を縮小して実施するなど、商工会議所のスケールメリットを活かしきれず反省すべき点もあった。

(4) 「すまい・るネット宝塚」事業の実施

宝塚市・宝塚マンション管理組合協議会・宝塚商工会議所の三者により意見交換及び講習会の共同運営等を実施。また、本年は先進事例研修やマンション管理組合に対するニーズ調査を実施した。市内の住宅の補修等を中心に市民からの要望の多い市内建設業者による安心な工事を依頼できる機関の設置について検討を継続して行った。

3. 組織の基盤強化

(1) 会員増強運動の展開

「地域のつながり力の強化」をテーマに増強に努めた。特に、役員議員からのご紹介を中心に加入勧奨を図った。

(2) 会員福利厚生事業の充実

会員参加型事業の推進を基本として本年度も事業を展開、特に具体的事業として健康診断受診支援事業をはじめ多くの会員参加を促す事業に取り組んだ。

4. 中心市街地活性化への支援

宝塚市が国に提出し認定を受けた基本計画の進捗を当協議会が検証し、特に基本計画の一部修正等宝塚市が中心となって事業の見直しを行った。

5. 「だいすき宝塚」推進事業の企画・推進

(1) 「だいすき宝塚」事業推進委員会の設置

(2) 「(仮称)がんばろう宝塚」の実施

※2 産業活性化策の積極的推進(1)②参照

(3) 「明るい労働環境」推進事業の実施

※2 産業活性化策の積極的推進(3)①参照

(4) 「すまい・るネット宝塚」事業の実施

※2 産業活性化策の積極的推進(4)参照

(5) レジ袋削減への取り組み

昨年度実施したレジ袋の配布に関するアンケート調査の結果をもとに、関係機関との協議を重ねた。本年度は、レジ袋削減に向けた具体的な取り組みを推進するため、行政・事業者・消費者・商店連合会・商工会議所のそれぞれの役

割を明確にすべく協定を締結することに合意した。(※協定締結：平成23年4月13日)